

## 平成 24 年度第 2 回学校協議会実施報告

実施日時：平成 25 年 1 月 30 日（水）午後 5 時～ 7 時

実施場所：本校会議室

学校協議会委員出席者（五十音順）

塩見委員、柴田委員、高松委員、田中委員、田峰委員

事務局出席者

山崎（校長） 繁内（教頭） 中尾（事務長） 鎌田（首席） 藤井（首席） 徳田（教諭・教務主任）

田村（教諭・生徒指導主事） 常盤井（教諭・進路指導主事） 岡本（教諭・1 年学年主任）

### 次第

1. 校長挨拶

2. 現状報告 学校経営計画の進捗状況等 校長

学校教育自己診断結果について 藤井

3. 意見交換

4. 事務連絡

### 内容

< 挨拶 >

校長より、本日の会議の進行に触れ、簡単に挨拶を行う。

< 現状報告 >

校長より、学校経営計画進捗状況について説明。

1、学力の向上について。

ア、自己評価（ ）：10 月 18 日に校内研修実施。「学力保障と中高連携」というテーマで、研修を行う。43 名参加。講師は茨木市立南中学校教諭。

イ、自己評価（ ）：学力保障委員会が中心となって 11 月に「授業力向上月間」を設定。教員相互に授業見学を行い、見学者が授業見学カードを手渡した。

ウ、自己評価（ ）：基礎学力診断テスト 1 回目（4 月）、2 回目（9 月）の比では、英語が横ばい。国語、数学が 40 % の下落。国・数の充実が課題。

エ、自己評価（ ）：各担当者による「授業アンケート」では、「わかりやすい授業だ。」の肯定的評価が 76 % であった。

オ、自己評価（ ）：学力保障委員会で 1 年生を対象にマナトレを実施した。

カ、自己評価（ ）：地元中学校連絡会議を 2 学期末時点で 3 回開催した。3 学期に 1 回する予定。

キ、自己評価（ ）：中学校の授業参観に本校の教員が 22 人参加した。

ク、自己評価（ ）：中学校の授業参観を基にした学力保障検討案の提出には至らなかった。

2、社会で生きるための諸能力の向上について

ア、自己評価（ ）：キャリア教育と進路実現（卒業時内定率 95.5 %：2 月末現在）

イ、自己評価（ ）：12 月末現在の懲戒者数は、昨年度比 36 % 減。

ウ、自己評価（ ）：生徒向け学校教育自己診断の結果、「学校へ行くのが楽しい」の項目については 65 ポイント、「授業がわかりやすく楽しい」が 41 ポイントであった。

・・・ 教員各自が実施した「授業アンケート」の数字とかなり違いがあることを併せて報告した。

エ、自己評価（ ）：学期ごとに教科担当者会議を開き、情報を共有した。

オ、自己評価（ ）：5 月と 11 月にスクールカウンセラーを講師として、教育相談研修を実施した。

3、総合選択制の長所を生かした教育活動の展開について

- ア、自己評価( ): 教務部とエリア連絡会が連携し、新転任者向けの学習会を開催した。
- イ、自己評価( ): 生徒対象エリア授業見学会では、上級生が1年生に説明を行うなど、生徒のプレゼンテーション能力を育成する取組みが見られた。
- ウ、自己評価( ): エリア授業発表会はこれまで体育館で実施していたが、今回、市民会館を借りて、本格的なステージで発表を行い、大いに盛り上がった。
- エ、自己評価( ): エリア授業アンケートの満足度は73.6%であった。2、
- オ、自己評価( ): 地域及び大学と連携して行う授業は、昨年度比23%増にとどまった。(目標は50%増)
- カ、自己評価( ): 中学校への出前ホームルームを7中学で実施した。のべ9回、2中学で2回実施。

藤井より、学校教育自己診断結果について説明

#### 1、今年のポイント

- ア、診断ポイントを分野別(学校体制、教員対応、生徒指導系、学務系)に分類。
- イ、保護者への通知は郵送とし、保護者のアンケート参加率をアップさせた。

#### 2、自己診断をめぐる情勢

- ア、条例による義務化
- イ、結果から課題の克服策を打ち、結果を再びアンケートで問うことの義務化
- ウ、ホームページで公開することの義務化

#### 3、学校教育目標とアンケート結果の分析

- ア、全体平均は教員61、保護者63と平均して診断ポイントは高い。生徒は56とこれより低くなっている。学校の教育活動について、一定、保護者の理解が得られているが、生徒に届いていない課題がある。例:「生活指導に納得できる」にたいして、保護者60、生徒42

#### イ、重点課題

- 「授業はわかりやすく楽しい」にたいして、保護者41、生徒41
- 「生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している」教員67
- 授業に対する評価は保護者・生徒と教員との意識に開きがある。

<意見交換>: 学力向上、やる気の喚起、中高連携等について行う。

#### 「基礎学力診断テストについて」

- 委員 基礎学力テストによると2回目が大きく下落しているが、実施時期はいつか。
- 事務局 うちでは4月と9月に実施している。
- 委員 1学期と3学期にしてはどうか。
- 事務局 できないことはない。現在は1年を2つに割って、年度はじめと年度の中でやっている。また、3学期に希望者に対して実力テストを行っている。入学後、3回目の基礎学力テストが2年生の4月になるので、1年生の3学期に2回目を行うと、時期が近すぎる問題がある。

#### 「生徒のやる気喚起について」

- 委員 私は近所の小中学生10名ほどを集めて寺子屋をしているが、親や学校に言わない夢を持っている。夢を共有する大人がいることが大切。やる気の喚起には必要なことだ。
- 委員 私は特別非常勤講師としてつばさの生徒を教えているが、今年の生徒はおとなしい。昨年度は活発に発表していた。来年度はプレゼン授業をもっとやりたい。  
やる気は人から言われて出てくるものではない。生徒はエリア科目が好きで選択しているが、それが夢をかなえることにつながるかは不明。夢を語れば親や社会からたたかれることもある。学生の離職率が高いのは、その仕事を実際やりたかった仕事なのかどうか、キャリア教育が適切だったかどうかと関係あると思う。

#### 「近隣中学校との連携について」

- 委員 茨木市教委に登録済みの大学生が中学校に大勢教えにきてくれている。また、つばさ高校の先生も出前進路HRの講師に来てくれている。中学生には自分でがんばっていける高校を意識させている。行事や研究授業でもっと交流していきたい。  
つばさネットワークが行っている震災復興支援ボランティアの話を、高校生が中学生に語ることもいいのではな

いか。

中学校でも授業アンケートを行うと、わかりやすい授業という項目は 50 %を切る。どうやって改善していくのが大事だ。

事務局 出前HRは現在教員が中学へ出かけているが、生徒が呼ばれていくこともあればいい。震災復興ボランティアの話をしに行くことがあった。

「生徒の進路決定状況について」

事務局 昨年度に比べて今年は求人が来ない。学校斡旋就職希望者の就職が決まらない。進路未定者のうち、フリーターでいいという生徒が増えた。そのような生徒は、学校にまじめに通ってこないし、アルバイトばかりしている。成績がふるわず、欠席が多いのが傾向だ。

委員 やりたいことがあるのではないか。

事務局 このままでいいといっている生徒が目立つようになった。

委員 やりたいことはあるけど、いつまでにやらなければならないとは思っていない。努力していると見られたくないということか。

事務局 ぼろぼろにならないプライドを持っている。学校に来てくれなければどうしようもない。現 3 年生は全体的に落ち着きに欠ける生徒が多い。

委員 一人一人理由がある。私の知っているある中学生は、卒業したら父親の仕事を手伝いたいから、高校へ行くための勉強はしないといっている。バイトを優先している女の子は、現在祖母とくらしているが、金をためて母親と暮らしたいという希望を持っている。それぞれ事情がある。

事務局 事情を担任に話してくれない。高い壁がある。進路未定者は女子に多い。バイト先で次のステップに踏み出せればいいのだが。

委員 高校生は就職しても3年以内の離職率が50%と聞く。大学生に聞くと、1年生からバイトして、4年になるとバイト先で慣れているため、これでいいと思ってしまうとのこと。私は大学で生き方をビジュアル化する取り組みをしている。グループワークで話を聞くことによって、自分の内面が見えてくる。

事務局 入学時に夢を語らせることが必要と思う。本日の内容を参考にしていく。